

令和4年第4回定例会 一般質問にたちました (2022.11.28)

**帯状疱疹ワクチン公費助成**

**問** 今回公明党からの要望を受け、帯状疱疹ワクチンの助成事業を行うことにしたことを評価する。23区に先行して(生ワクチンと不活化ワクチン)両方を選択できるようにすることが望ましい。

**答** 50歳以上を対象に、2種類のどちらかのワクチンを選択いただくこと、助成額はそれぞれ接種費用の半額程度を助成する(12/12補正予算成立し、2023年3月より助成事業スタート)。

**高齢者の補聴器購入助成**

**問** 都の包括補助を受けるための要件や他区との状況などを踏まえ、助成を検討すべき。



**答** 特別区23区のうち、令和4年度現在、16区が補助を行っている。中野区としても他区との状況を踏まえながら、高齢者の社会参加を目的として導入の検討を進めたい。

**スマートフォン相談会の定期的な開催**

**問** スマホ相談会は定期的に開催すること、適切な広報が必要。マイナポイントやマイナバーカード、キャッシュレス決済についても教えるようにしては。

**答** 来年度予算では東京都の事業スキームも最大限に活用し、定期的な開催をする。また、なかの区報だけでなく、別途広報用ポスター掲示等により周知する。



**犯罪被害者支援相談窓口**

**問** 犯罪被害者支援の窓口の相談員を拡充するとともに、さらにわかりやすい広報につとめるべき。

**答** 相談支援の必要な方に、より伝わるように区HPの表現やSNSの活用など、広報のあり方を工夫していきたい。

こう だ  
**甲田ゆり子NEWS**



生まれ育った中野を笑顔輝くまちに



**VOL.034**

発行元: 中野区公明党議員団  
2023年 新春号

**ご挨拶**

新しい年を迎え、皆様にとって幸多き年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

2020年春より見舞われた、新型コロナウイルス感染症との戦いは緊張の連続ですが、少子高齢化の課題も待ったなしです。この間、多くの方の切実な声から、中野区へ提案し前進した事などをご報告いたします。

本年も誰もが住みやすい中野をつくるため、懸命に働いてまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2023年1月 甲田ゆり子



**令和5年度予算要望を行いました**

(公明党議員団⇒酒井区長・入野教育長) (2022.10.24)

〈子ども・教育〉28項目・〈新型コロナ・医療〉5項目・  
〈高齢者・障がい者〉26項目・〈防災・防犯〉14項目・  
〈まちづくり・文化・産業振興〉15項目・〈SDGs〉13項目・  
〈女性〉2項目・〈その他〉3項目 ⇒ **合計106項目**



**地域の声より  
取り組みました**



上高田5丁目11 北原橋  
川沿いは両方通行のため注意幕設置  
「道路狭し走行注意」



新井3丁目22  
バイクが誤って侵入するのを防ぐため「右折先 行き止まり」電柱幕設置

**活動報告**

- 8月23日 西武新宿線踏切解消促進期同盟決起大会
- 9月 各種団体との予算要望懇談会
- 9月・10月 第3回定例会
- 10月15日 特別支援学級連連合運動会【1】
- 10月22日 あらい文化祭
- 10月29・30日 なかの東北応援まつり(ねぶたパレードに出場)【2】
- 11月2日 細井家お別れ見学会
- 11月3日 中野区町会連合会操法大会【3】
- 11月5日 上高田地区合同作品展
- 11月19日 上高田1・2・3丁目防災まちづくり提案書報告会
- 11月21日 中野区「生命のメッセージ展」
- 11月27日 中野区総合防災訓練(桃園第二小学校)【4】
- 11月・12月 第4回定例会
- 12月10日 令和小学校展覧会



**区民相談(生活相談)件数**

2022年8月~11月...165件

**累計3,306件**

\*2011年5月 初当選時より累計

**甲田  
ゆり子  
連絡先**

公明党控室... TEL.03-3228-8875 FAX.03-3389-8680  
ブログ..... <http://koudayuriko.com/blog/>  
Eメール..... [kouda-yuriko@aioros.ocn.ne.jp](mailto:kouda-yuriko@aioros.ocn.ne.jp)  
Instagram... <https://www.instagram.com/kouda-yuriko/>  
Facebook... ネット検索は... 甲田ゆり子  
ホームページ... <http://koudayuriko.com/>

公式SNSは  
こちら!





## 高齢者・障がい者・生活困窮者 (住宅確保要配慮者)の住まい確保 支援を

**問い** 高齢者や障がい者の方に物件を提供する不動産屋さんへのインセンティブ等が必要では。

**答** 居住支援協議会の取り組みの中で情報発信などを進めていく。



## 地域の防災行動力の向上へ

**問い** 災害時に避難所へ行くことができない方のために備蓄物資等を届けようとする地域防災会・町会・自治会の取り組みをさらに支援すべき。

**答** 「地域防災住民組織活動助成金」について、在宅避難を普及啓発する目的での物資購入であれば、助成の対象とする旨、助成金申請時に丁寧に説明を行う。



▲防災資機材倉庫の点検活動を行う地域防災会の皆さん

## 妊産婦の支援

**問い** 多子世帯、多胎児の産後ケア支援(上の子の預かりや利用回数上限)を拡充すべき。

**答** きょうだい児の預かりのニーズなど認識はあるが、実績や実態を分析しながら適切な利用回数の設定について検討したい。



## 子ども相談室(\*)の整備

**問い** 子ども相談室の環境整備・相談しやすい雰囲気づくりを進める必要がある。子どもの意見をもとに、相談室の愛称やキャラクターをつくるべき。

**答** 子どもに寄り添った相談対応等を行っていくため、早急に工夫していく。



※旧教育センターは、令和3年度より当分の間、教育センターの分室として、不登校や外国籍の子どもたちの支援、教職員の研修室として活用している。現在、3階に子どもの権利に関する条例に関わる子どもための相談室を9月に開設した。1階部分は自習スペースとして子ども向けに開放している。



## 子育て支援ハンドブック 「おひるね」の復活を

**問い** 中野区の子育て支援小冊子「おひるね」について、財政状況の悪化を理由に平成30年に広告収入での作成となり、その後、令和2年度に停止していたが、復活すべきでは。



**答** 電子媒体への転換や費用対効果を踏まえながら、区民にとっての利便性を踏まえて検討する。

## 妊娠・出産・子育ての伴走型支援

**問い** 国の総合経済対策の中で、「伴走型相談支援」と「出産・子育て応援交付金」の支給が発表された※))>>中野区としては、これまでの取り組みのさらなる充実が必要。「子育ての伴走型支援」をどのように考えるのか。伴走型支援は「子どもの地域包括ケアシステム」の重要な要素であるが、実施体制として、現状のすこやか福祉センターだけでは不十分では。

**答** 個々のニーズなどに応じた切れ目ない支援を行う取組みを子育ての伴走型支援と考えている。国・都の動向を踏まえながら、今後の支援のさらなる充実を検討する。すこやか福祉センターの企画調整を担う基幹機能の強化に取り組み、体制の充実を図る。

## 不登校の子どもへの支援

**問い** 教育相談の機能強化、フリースクールやNPOとの連携、オンライン授業・動画配信等の現状を問い、「スクールソーシャルワーカー」の増員を。

**答** NPOと連携した柔軟な学びの場の確保実施を検討する。また、1人1台端末を活用したオンライン授業の配信や、別室での視聴等柔軟な対応を行っている。「スクールソーシャルワーカー」の勤務日数を現状より増やすことで増員を検討する。

## 里親家庭の支援

**問い** 里親支援機関の支援の現状を問い、養育家庭においてはピアサポート的な支援や先輩里親からの助言が日常的に必要であり、区として里親家庭の相互支援の積極的な支援を行い、力強く支えていくべき。

**答** 里親相互のサポートを支える仕組みづくりに向け検討を進める。



### ※国の新たな伴走型支援の概要

**伴走型相談支援** (身近で相談サポートにより、育児の孤立を防止)

**経済的支援**

- 出産応援ギフト (妊娠届出時、5万円相当)
- 子育て応援ギフト (出産後/5万円相当)

**伴走型相談支援(面談)**

- 1 妊娠届出時
- 2 妊娠8か月前後
- 3 出産届出から乳児家庭全戸訪問までの間

**問い** 産後ケアや一時預かりの担い手の育成、子どもショートステイの拡充、ファミリー・サポート事業の改善、産後ケア施設の修繕費用助成事業の拡充を提案。

**答** それぞれについてしっかりと努力していく。

## 多様性の象徴として アール・ブリュットを 活用したまちづくり



**問い** 単なる文化・芸術の一つとしてではなく、多様性の象徴として常時区民の目に触れられるようにすべき。また、新庁舎や中野駅周辺のまちづくり(工事中の仮囲いなど)においても、中野区のシティプロモーションのひとつとしてアール・ブリュットの活用を。

**答** 区役所新庁舎での展示をはじめ、さまざまな機会・場所を通じて、アール・ブリュットを展開していきたい。

